

十日町市 小中一貫教育実施計画

十日町市の目指す学校教育の姿
ふるさとに遊ぶ。共に生きる。自ら創る。

つながり いっぱい

十日町市の 小中一貫教育

- ・ 9年間を見通した教育課程の編成・実施
- ・ 6・3制を維持しつつ、小中の円滑な接続を目指す

十日町市の3つの教育方針

- 学力の向上
- インクルーシブ教育の推進（共生の理念）
- 不登校の減少・いじめの認知

方策1 教職員のつながり

確かな学力と豊かな心の育成

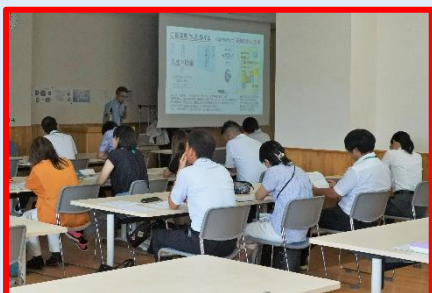
- ・ 9年間を見通した教育課程の編成
- ・ 小中の緊密な連携による切れ目のない支援や指導の推進
- ・ 幼保小の連携による子どもの主体性の育成



小中学校間の文化を学び合う
校種間の教職員交流



学ぶ意欲を引き出す探究的な学
びを意識した授業改善



中学校区の課題に応じた合同研修
（特別支援教育）



子どもの姿を通じた幼保小の
教職員の学び合い



伝統芸能を学び地元の人々
とつながる場づくり



地域の活性化を共に考え支える活動
による地域愛の醸成

各中学校区の具体的取組例紹介

○市の共通取組事項

- ・ 居心地のよい学級づくりによる安定度・活性度を高める集団づくり

○中学校区ごとの取組

- ・ 9年間を通じて育てる子どもの姿を明確にした
グランドデザインの改善・見直し
- ・ 魅力ある教育活動の創造・推進

令和8年度の 重点

- ・ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
- ・ 中学校区の課題に応じた取組の改善・重点化

方策3 地域とのつながり

地域に誇りを持ち、創造性豊かな子どもの育成

- ・ 地域の学習素材や人材・組織を活用した 体験的学習の充実
- ・ 保護者や地域の組織等と連携した 中学校区の課題解決の推進



保・小・中学校の保護者・教職員・住民が子
どもの育ちについて共に学ぶ場



学びの成果を地域の人々に披露
し、感謝の気持ちを伝える場

方策2 児童生徒のつながり

共生の理念に基づく豊かな人間性や社会性の育成

- ・ 学級、学年、他校、異学年、異校種の子どもの絆づくり
- ・ 多様性を認め合い、コミュニケーション能力を養う場づくり



あこがれの中学生の姿を示す場



共に楽しむ小小交流集会



小中縦割り班での集会



中学生による小学生学習支援



共生の理念を学ぶ特別支援学
校との交流



同じテーマについて話し合ういじ
め見逃しゼロスクール集会



ねらいを一致させて取り組む
合同あいさつ運動



リーダーシップとフォロアーシップ
を発揮して達成感を味わう活動

児童生徒の

教職員の **つながり** 地域との

十日町市の目指す学校教育の姿

ふるさとに遊ぶ。共に生きる。自ら創る

十日町市の3つの教育方針

学力の向上

インクルーシブ教育の推進（共生の理念）

不登校の減少・いじめの認知

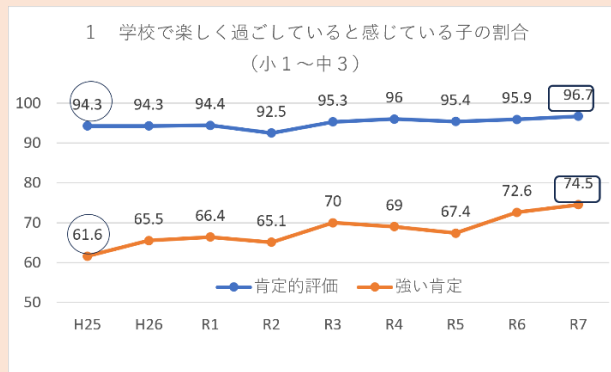
十日町市の小中一貫教育 成果と課題を基に中学校区の見直しをしましょう！

令和7度小中一貫取組評価アンケート

(令和7年11月～12月実施) 児童生徒:12項目2678人 教員:4項目352人 保護者:2項目2151人 ※グラフ内の破線は小中一貫教育で目指す目標値
「肯定的評価」…4択(「そう思う」「大体そう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」)のうち、「そう思う」と「大体そう思う」と答えた割合の和 「強い肯定」…4択のうち「そう思う」と答えた割合

「居心地のよい学級づくり」を生かし、「学校を楽しい」と感じる子どもを増やそう

十日町市で目指す子どもの姿の実現のために、「居心地のよい学級づくり」を共通取組事項に位置付け推進します。WEBQU学級の安定度を高め親和型の学級をつくることを第一に、学びにおける活性度を高め、「主体的・対話的で深い学び」の具現を目指します。学校を楽しいと感じる子どもたち(肯定的評価)は5年連続で95%を超える割合で推移しています。さらに、強い肯定を示す割合も全小中学生の4分の3に近づくまでになりました。各学校、中学校区でのきめ細やかな子どもの見取りと学級づくりシートに基づいた着実な実践によるものです。

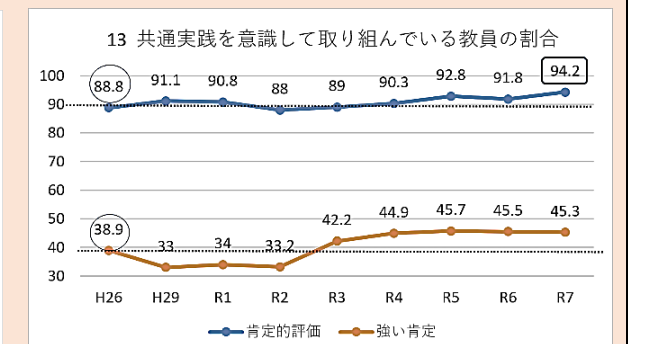
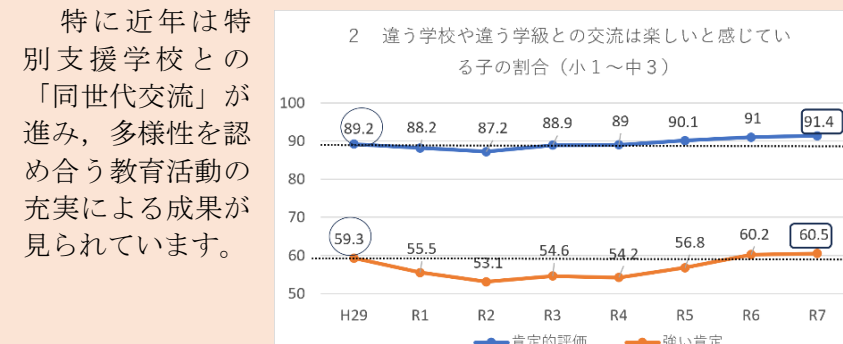


今までの実践を基盤に、学校全体で取り組みます。左のグラフの指標を用いた評価では、目標値の破線を概ね上回る状況にあります。

今後も、「居心地のよい学級づくり」をとおして児童生徒の自己有用感を育み、それをベースとして、交流等の活動を工夫改善しながら、小中一貫教育の取組の質をさらに向上させていきます。

児童生徒間の 学校間の「つながり」について今後も期待！

十日町市の小中一貫教育の「つながり」は、様々な方策の中でも核となるものです。小学校同士のつながりを目的とする「小小連携」も小中学校のつながりを深めることを目的とした「小中連携」も、各中学校区において、それぞれの特長を生かし、表面の写真にあるような多様な活動が組み立てられました。右下のグラフのように、子どもたちは学年や校種を越えた活動に楽しさを感じ、教職員も中学校区の共通実践を意識して取り組んでいることが分かります。



小中一貫教育 令和8年度に重視したい点

☆「居心地のよい学級づくり」を基盤として確かな学力の定着を！

「居心地のよい学級づくり」を基盤として児童生徒一人一人を伸ばし、確かな学力の定着と不登校の未然防止(新たな不登校を生まないこと)に努めましょう。そのために、すべての学校でWEBQUの理論的な枠組みと見方や活用の仕方、親和的な学級づくりについて学ぶ機会を設け、データの見方や活用の仕方を誰もが身に付けられるようにします。

具体的には、WEBQUに基づく事例検討会を全学校で確実に実施します。事例検討会は、学級の児童生徒の状況・状態、学級の状態について当該学級担任や担当教員だけでなく、すべての教職員が当事者意識をもって向き合う場とすることが求められます。当該学級の指導の具体策や方向性について知恵を出し合い、話し合うことで「共に学び合う・学び続ける」教職員集団としての力を高めます。管理職が各学級の状態を的確に把握し、適宜スーパーバイズする情報を得るための機会とします。事例検討会によって学級づくりシートを作成して、日々の実践に生かします。

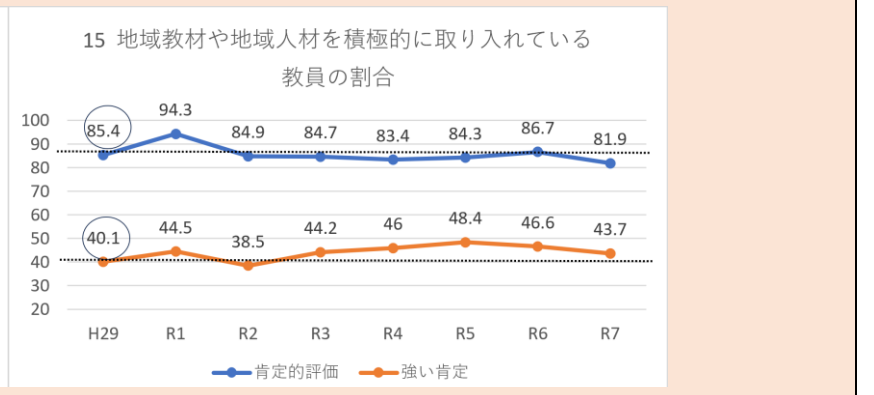
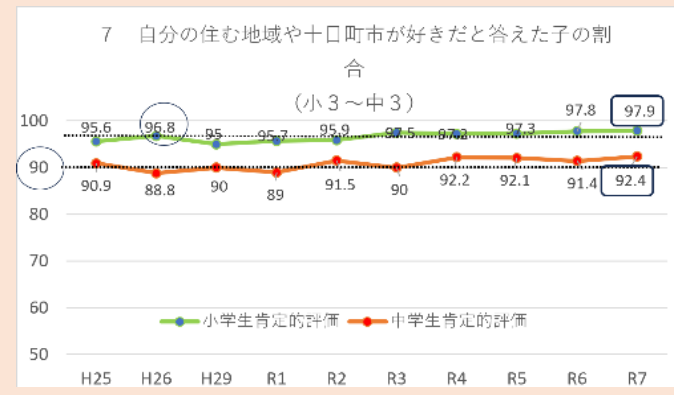
安定度と活性度を高めることと授業改善を進めることによって学力が定着することをNRTのデータによって確かめていきます。

「居心地のよい学級づくり」の指標(十日町市教育センター)

- NRT総合偏差値平均が前年度を上回る。
- アンダーアチーバーが小中ともに16%以下となる。
- 親和型の学級集団(小:70%以上,中:60%以上)となる。
- 90%以上の児童生徒がインクルーシブライン内に位置する。

☆地域との連携により、探究的な学びの充実を！

主体的に学び、自分自身の未来を切り拓いていく子どもを育てるためには、子どもが自ら課題を設定し、仲間とともに情報を集めたり分析したりしながら解決していく学習過程を大切にすることがあります。そのためには、幼児期の主体的な遊びの中にみられる探究心を小中学校の学びの中に生かし、生活科や総合的な学習の時間のみならず、各教科においても探究的な学びを充実させていきます。ぜひ地域のひと・もの・ことを生かして探究的な学びを推進していきましょう。それが子どもたちの地域愛を育むことにもつながります。



教育委員会等の支援等

○市の共通取組事項

- ・小中一貫教育推進協議会の開催
- ・「居心地のよい学級づくり事業」の推進

○中学校区への支援

- 研修・連絡調整等
- その他の主な支援
- ・小中一貫教育計画訪問
- ・小中一貫教育中学校区合同研修会
- ・広報小中一貫教育だより[つながる]発行
- ・小中一貫教育推進コーディネーター研修
- ・学力向上, 生徒指導, 相談担当, 教員サポート, ICT担当指導主事配置
- ・臨床心理士, SSW, 教育支援員, 各種相談員配置
- ・医療連携 等